

<p><b>1. 教育目標</b></p> <p>○豊かな生活体験や遊びに幼児が主体的に関わり、未来に向かってたくましく生きる基盤を育てる</p>	<p><b>2. 本園の目指す幼児像</b></p> <p>○自ら考え行動できる子ども（意欲・思考・自立・自律）</p> <p>○豊かな感性が育ち、生き生きと表現する子ども（発想・工夫・自信）</p> <p>○自己も他者も尊重して良い人間関係を築ける子ども（快活・協調・思いやり）</p>	<p><b>3. 本年度の重点的に取り組む目標</b></p> <p>○保護者に幼稚園教育の意義と成果を伝え、家庭教育につなげていく。</p> <p>○通常保育と預かり保育のより良好な接続を考える。 ～システム面と教育面からの改革～</p>
---------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. 評価項目の達成および取り組み状況

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果							コメント	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価		
保護者に幼稚園教育の意義と成果を伝え、家庭教育につなげていく	保護者と幼児の育ちを共有できる手紙や動画配信の工夫	4	教師のねがいや、活動の意義を踏まえた内容や家庭でも取り組める関わり方の写真や手紙、動画配信の工夫をする	3, 4	4	行事・活動内容の一連を知らせる中で、教育的意義を伝えられるようになり、幼児の成長した姿を喜び合えるようになった	3, 2	A (3, 3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への手紙やインスタグラム、動画配信において、幼児の育ちや教育的意義を教師が常に意識して伝えてきた成果が表れていると感じる。</li> <li>・活動や遊びの中で育つ力を動画や手紙で伝える事により、その後の保護者との対話がスムーズに進み、より具体的に子どもの育ちを共有することが出来た。</li> <li>・課題としては、配信が園からの一方的な情報だけになってしまうことがあった。今後は、家庭教育の質の向上につながるような配信のあり方を目指していく。</li> </ul>	
		3	行事や活動後の幼児の姿や成長を踏まえた内容を知らせる		3	配信後、保護者と教師が積極的に幼児の育ちや成長した姿を話す機会が増えていった				
		2	幼児の姿（様子）をそのまま写真や動画で知らせる		2	幼児が楽しそうにしている姿を伝え、成長の喜びを共有できるようになった				
		1	前年と同じ活動内容の手紙、動画の配信をする		1	伝えたいことが整理できるようになった				
	幼児教育と家庭教育のより良い連携を図る	保護者に幼児の成長や課題を伝え、園と家庭での関わり方を統一し一緒に取り組みながら保護者と信頼関係を築いていく	4	保護者に幼児の成長や課題を伝え、園と家庭での関わり方を統一し一緒に取り組みながら保護者と信頼関係を築いていく	3, 6	4	幼児の園での様子や家庭での様子を保護者と共有し幼児のより良い育ちの為、保護者と共に取り組んでいながら成長を喜び合うようになった。	3, 2		A (3, 4)
			3	保護者と幼児の成長や課題を踏まえ話をする		3	幼児の育ちに必要な遊びや体験の意義を伝えると共に成長した姿も伝えるようになった			
			2	保護者と幼児のその日のエピソードを踏まえ話をする		2	幼児のエピソードを忘れない様に書き留め、連絡をするようになった			
			1	保護者と何気ない話をする（子育ての労を労う）		1	保護者と話すことが楽しくなった			

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">通常保育と預かり保育のより良好な接続を考える （システム面からと教育面からの改革）</p>	<p>幼児理解と支援方法や関わり方の共通理解を図る</p>	4	通常保育で夢中になって遊ぶ玩具やその子の交友関係を担当教師に伝え、預かり保育でも遊び（玩具）が充実できるよう環境構成を考えていく	3	4	担当教師と一貫性のある関わり方をすることにより幼児が安心して園生活を送る事ができ、通常保育と預かり保育の垣根がなくなりより良い成長を促すようになった	2, 7	C (2, 9)	<p>・「個人カード」を活用し、幼児の特性や関わり方、支援の方法の統一を図る事によって、教職員一丸となって幼児の育ちに関わる事が出来た。</p> <p>・職員の送迎担当に「預かり保育」の担当を増やし、1人の幼児を複眼でみる事ができた。その後の情報交換によって幼児理解をより深めていく事ができた。</p> <p>・預かり保育と通常保育の時の幼児の姿が異なる様子が見られた。担任と預かり担当教師との情報交換や支援の方法、環境構成の工夫を強化して取り組んできたが、成果としては、今後課題が残る。次年度も継続して取り組んでいきたい。</p>
		3	預かり保育の中で、幼児の関わり方や接し方を担当教師に手本としてみてもらい、支援方法の情報交換をする		3	幼児について担当教師と話す機会が増え、様々な関わり方や支援方法を試してみるようになった			
		2	担当教師に気になる幼児の特性や支援方法を伝える (好きな遊び・落ち着いて遊ぶ玩具を用意する)		2	気になる幼児の様子や支援を詳しく伝えるようになった			
		1	預かり保育中、1度は様子をみに行く		1	預かり保育の幼児の様子を知るようになった			
	<p>通常保育と預かり保育の効率的な業務体制の構築</p>	4	学年だけではなく、園全体で業務内容を把握し互いに分担したり補ったりしていきながら業務を行っていく	3	4	園全体で、声を掛け合ったり助け合ったりする中で、業務の迅速化と教職員間の連携に繋がり、預かり保育のシステムの構築に繋がっていった	2, 7	C (2, 9)	<p>・担任も預かり保育に携わる事で今まで見えなかった業務内容を知った。それにより、預かり保育の業務と通常保育の業務をスムーズに進めていけるよう、1日の業務内容の計画を立てるようになった。</p> <p>・通常保育と預かり保育の業務が重なり、優先順位をつけることが難しく、どちらかに偏ってしまうことがあった。学年の垣根を超えて、上手く分担できるよう声を掛け合い、助け合うことで園全体でスムーズに業務にあたれるようにしたい。</p> <p>(ホワイトボードに「することリスト」を書きだし誰でも確認できる様に可視化し、優先順位を決めて取り組むようにした)</p>
		3	預かり保育中の業務を学年で分担し、打ち合わせ等の業務が成立できる様、業務や時間の調節をする		3	預かり保育の業務を含めて、計画的に業務を分担、実行するようになっていった			
		2	業務の精査を行う (玩具や環境、生活の流れを月1回見直す)		2	業務を精査することで、優先順位をつけ業務にあたるようになった			
		1	通常保育と預かり保育の業務を明確にする		1	業務内容を知るようになった			

○取組と成果に関する評価結果

A：とても良い      B：まあまあ良い      C：普通      D：良くない（要検討）

## ○総合的な評価

評価	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"><li>・本年度の重点目標を念頭におき1年間取り組んできた保育実践は、総合結果からも分かるようになり達成できていると思う。日々の保育を振り返り、遊びや活動を通じて、幼児にどのような育ちが見えるのか、活動や遊びの中にどのような意義があるのかを具体的に写真や動画、手紙、SNS等で保護者に配信していき、幼稚園教育の意義を伝えていくことができたのではないかと感じる。</li><li>・重点目標を常に意識しながら保育をすることは、子どもの育ちを支える教師にとって、とても重要だと考える。1年間の保育を振り返り、目標を達成し、教師が幼児の成長に喜びや達成感を得て、保護者と共に喜び合えることは、教師のやりがいや自信につながっている。重点目標を常に意識して保育に取り組んでいくことが非常に重要であることを改めて実感した。</li></ul> <p>今後も、教師自身が生き生きと自己発揮できるそんな保育実践や、次年度に生かされる自己評価を繰り返し、幼稚園教育の質の向上を図っていきたい。その積み重ねこそが、自己評価の意義であるのではないかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家庭教育を考える上で、近年の各家庭の教育力の差が大きく、今まで以上に保護者支援の必要性を感じている。その為にも保護者の気持ちに寄り添いながら、よりきめ細やかな連携と深い信頼関係を構築していき、幼児のより良い育ちの為、幼児教育と家庭教育が上手くつながっていけるような取り組みが必要であるとを感じる。</li><li>・預かり保育においては、年々重要視されている。教育の中の一環であると再認識した上で、幼児にとっての通常保育と預かり保育のスムーズな接続が求められてくる。</li></ul> <p>それに伴い、今まで以上の職員間の連携や業務の効率化に向けて体制の再構築が必要となる。効率的な業務内容の構築が望まれ、幼児同様職員間も多様な人たちとの関わりや協力体制の中、今年度の反省や課題を踏まえ今後も力を入れていかなければならない課題となった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・随分緩和されてきたが、コロナ禍を過ごしてきた幼児達。以前の幼児の生き生きとした表情に比べ、近年の幼児の表情の乏しさや、自分の気持ちを生き生きと言葉で表出しにくいという、課題が見えてきた。園で教師や多くの仲間と一緒に生き生きと過ごす中で、自分の感情を思いのまま表出し、心揺さぶられる体験をもっと増やしていく、そんな保育展開のあり方を考えていきたい。</li></ul>

## 5、今後、取り組む重点的課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	個人のねらい（個人の重点）を考え、ねらいが達成できるような保育実践の在り方、記録の取り方を考える	<ul style="list-style-type: none"><li>・日々の保育を見直し、振り返り、意見交換ができる業務時間の確保。</li><li>・定期的に、保育内容を精査・検討し、ねらいを意識しながら保育実践を心がけていく。（指導計画・毎月のカリキュラムなどの見直し）</li><li>・学期ごとに幼児の育ちや課題を整理し、次へ向けてより具体的な取り組み方と細かな記録の取り方を工夫する。（園内研修・ビデオカンファ等を利用する）</li></ul>
2	園全体の業務内容の可視化と教職員の連携体制の構築を図る ～職員間のより良い連携と働き方改革を目指して～	<ul style="list-style-type: none"><li>・年間の行事や活動、日々の遊びの準備など、業務内容を月毎に可視化していく。</li><li>・労働改善に向けて、教職員間での業務分担や協力体制を整える。</li><li>・同学年の教師間の連携を基盤とし、他学年の業務にもスムーズに関わっていける教職員間の連携を深めていく。（他学年も意識する）。</li></ul>

## 6、学校関係者評価委員会の評価

- ・行事や活動の為の準備、子ども達が毎日遊ぶ為の手作り教材や用具の手伝いをする為に、母の会が中心となり開催している「手仕事の会」がある。その中で、保護者同士の交流から新たなつながりが増えていき、会を重ねることで保護者同士のつながりが深まっていく様子が伺えた。その結果この活動を通して、保護者が園の保育内容や教師の配慮に理解が深まるきっかけとなっていた。このような機会を増やしていくことが、子ども達の良い育ちの為に、園と保護者がより良い関係を築いていけるのではないかと考える。
- ・活動や行事の後、リアルタイムで、保護者にインスタグラムやホームページ等で動画配信を心がけていった。それにより、日常の園での様子がつぶさに伝わり、親子関係を深める良いツールとなっている。子ども達が心揺さぶられる体験談を、保護者に言葉で上手く言い表せない部分も、動画を視聴することにより、保護者にもよりリアルに様子が伝わることで、親子の会話の広がりや深まりを感じられた。
- ・預かり保育に参加する子どもの中に、担当職員や教室等、通常保育との環境の変化に不安を感じ、預かり保育に参加が難しいと感じる子どもがいた。本年度の重点目標にも上がっていたが、さらに次年度も課題をもって保育にあたりたい。
- ・園での「ファミリークラス」は、保護者として安心して預けることができた。ファミリークラスは就労だけでなく、保護者のリフレッシュの為に、子ども達や保護者が預かり保育に参加しやすい体制を整えていくことが望まれる。
- ・通常保育と預り保育での子ども達の姿が異なってくるという課題に触れ、保護者が気付かないところで、子ども達は大きく成長していると感じる。幼稚園生活の中や地域の方、様々な保護者の方と触れ合うことで、親には見せない新たな子どもの成長した姿を感じる事が出来た。多様な人たちとの触れ合いや関わりの中で育つ、子どものより良い育ちを実感していきながら保育に臨んでいきたい。
- ・人材不足に大きな課題があげられる。いつも子供に寄り添い、子どもの心の拠り所となる教師は、子どもの育ちにとっても大きな影響を与える人的環境である。教師自身がいつも心と身体も充実していけるベストパフォーマンスが保たれていけるよう心がけていきたい。
- ・年度末の自己評価の評価項目は教師主体で行っていた。保護者においては、日々の生活を一緒に体験してもらう保育参加に参加して、その後のアンケートの結果を評価の参考としている。実際の評価項目が、保護者対象のアンケート項目と異なっている為、評価の信憑性が薄れていると考える。（小学校）

委員会実施日 令和6年3月27日